

## 〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

9月報

### インフルエンザ/COVID-19定点(小児科定点を含む)

※令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、定点医療機関による定点把握となっています。

インフルエンザ： 報告数は3,116件(前月比2.6、前年同月比119.8)でした。新学期が始まり、報告数は増加しました。秋期は地域や学校での行事が多いため、さらに流行は拡大すると予想されます。10月から始まるワクチンを早めに済ませて、場面に応じたマスク着用や手洗い、換気など基本的な対策が必要です。有明(定点あたり67.13)、宇城(61.00)、菊池(59.00)から多く報告されました。

新型コロナウイルス感染症： 報告数は4,661件(前月比0.7)で、前月よりも減少しましたが、このまま第9波が収束するのかまだ判断できません。9月からは現在流行中の主流株に対応するワクチンの接種が始まっていますので、重症化しやすい高齢者などは接種するのが望ましいでしょう。有明(定点あたり108.88)、人吉(89.40)、宇城(76.33)から多く報告されました。

### 小児科定点

(全体傾向)

報告数は10,589件(前月比0.91、前年同月比5.68)でした。新型コロナウイルス感染症・RSウイルス感染症・ヘルパンギーナは減少しましたが、季節外れの流行性インフルエンザの増加、さらに咽頭結膜熱やA群溶連菌咽頭炎などが増加したため、全体としては小幅な減少になりました。いずれも発熱を伴う疾患ですので、特に小児科外来の混雑は続いています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症： 報告数は101件(前月比0.2、前年同月比0.8)で、前月からさらに減少しました。6月から続いていた流行は収束したようです。0~2歳で報告の約9割を占めています。菊池(定点あたり4.40)、八代(4.25)、有明(4.00)から多く報告されました。
2. 咽頭結膜熱： 報告数は186件(前月比2.2、前年同月比13.3)でした。6月のピーク以降減少傾向でしたが、9月は増加に転じ、前月の2倍以上且つ過去3年間で最大の報告です。年齢別では、1~2歳をピークとして6歳未満で87%を占めています。水俣(定点あたり10.00)、天草(9.25)から多く報告されました。
3. A群溶連菌咽頭炎： 報告数は334件(前月比1.4、前年同月比12.8)で、前月同様増加傾向にあります。今年初めから緩やかに増加していましたが、5月からは著しく増加しコロナ禍前のレベルに相当する三桁の報告が続いています。患者との接触を介して伝播するため、コロナの5類移行によりヒトとヒトとの接触の機会が増加したことも一因と推察されます。過去のデータでは冬季および春から初夏にかけて増えていますので、今後の発生動向に注意が必要です。年齢別では4~7歳を中心に、6か月未満児を除く全年齢層から報告されています。熊本(定点あたり10.06)、宇城(9.75)、有明(9.40)、菊池(9.00)から多く報告されました。
4. 感染性胃腸炎： 報告数は1,044件(前月比0.9、前年同月比1.3)でした。前月に比べてやや減少しましたが、コロナ禍でも冬期には増加しましたので、今後の動向に注意が必要です。1~2歳を中心に全年齢層から報告があります。菊池(定点あたり62.60)、有明(53.20)から多く報告されました。

5. 水痘 : 報告数は19件(前月比0.5、前年同月比2.7)で、前月よりも減少しました。0～4歳で7件、9～14歳から12件の報告です。後者は定期予防接種導入初期に接種対象者であったため、2回目の接種率が比較的高くない年齢群です。菊池(報告数10件)からの報告が多いようです。
6. 手足口病 : 報告数は569件(前月比1.1、前年同月比1.4)でした。前月とほぼ同水準です。未就学児層での発生が大多数を占め、特に1歳と2歳からは三桁の報告でした。菊池(定点あたり28.60)から多く報告されました。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は9件(前月比3.0、前年同月比3.0)でした。報告数は未だ一桁ですが、増加傾向です。過去3年間流行を認めていませんので、今後の推移に注意が必要です。熊本7件、水俣と菊池から1件ずつの報告でした。
8. 突発性発疹 : 報告数は78件(前月比0.8、前年同月比0.6)でした。7月以降減少傾向ですが、大きな変化ではありません。
9. ヘルパンギーナ : 報告数は277件(前月比0.5、前年同月比2.0)でした。今年は春から増加傾向が始まりコロナ禍前のように夏季にピークを迎えました。8月に続いて9月は大幅に減少し、流行は収束しつつあります。1歳を中心に未就学児の報告が多数を占めます。菊池(定点あたり15.20)、有明(9.40)から多く報告されました。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数は12件(前月比0.5、前年同月比2.0)でした。4月以降は二桁報告が続いていますが、9月は減少傾向です。1～8歳まで概ね1～2件ずつの報告で、年齢での偏りはありません。有明、菊池、水俣、熊本からの報告です。

#### 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 21 件 (前月比 1.5、前年同月比 1.9)、すべて熊本からの報告です。20～29歳、40～49歳に多く出ています。

#### STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数73件(前月比0.8、前年同月比0.8)で、前月比と前年同月比は共に減少しています。男女別では男性が45件で、女性は28件で、罹患年齢層は男性が15歳～70歳以上と幅広くみられ、女性は15歳～49歳でした。保健所別発生状況は熊本が50件、宇城と八代が共に6件、菊池が5件、御船が4件、有明が2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 報告数24件(前月比1.2、前年同月比1.6)で、前月比・前年同月比共に増加しています。男女別では男性が14件、女性が10件で、罹患年齢層は男性が25歳～70歳以上、女性は15歳～59歳及び70歳以上でした。保健所別発生状況は熊本が15件、八代が4件、菊池と有明が共に2件、宇城が1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数は10件(前月比1.0、前年同月比1.7)で、前月比は増減無く、前年同月比で増加していました。男女別では男性が3件で女性が7件で、罹患年齢層は男性は35歳～39歳及び50歳～54歳、女性は15歳～39歳でした。保健所別発生状況は熊本が7件、菊池・有明・宇城がそれぞれ1件でした。

#### 4. 淋菌感染症：

報告数は23件(前月比0.8、前年同月比0.7)で、前月比及び前年前月比共に減少していました。男女別では男性が17件で、女性は6件で、罹患年齢層は男性が15歳～39歳、40歳～49歳及び60歳～64歳、女性は15歳～24歳でした。保健所別発生状況は熊本が16件、有明が3件、宇城が2件、八代と御船が共に1件でした。

### 基幹定点

#### (月報分)

##### 1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数は28件(前月比：1.0、前年同月比：1.8男女比：17/11)と増加傾向でした。熊本(13)、人吉(5)、阿蘇(4)、山鹿・天草(各2)、水俣・有明(各1)でした。年齢分布としては70歳以上(15)、65-69歳(4)、1-4歳・5-9歳・60-64歳(各2)、0歳・25-29歳・50-54歳(各1)と高齢者と幼児に多く認められました。

▼例年より多く増加傾向の報告数で経過していますので注意が必要です。

##### 2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は1件(前月比：0.1、前年同月比：0.3、男女比：0/1)と減少傾向でした。熊本(1)で、年齢分布としては70歳以上(1)でした。

▼例年より少ない報告数でした。

##### 3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は1件(前月比：-、前年同月比：-)で久しぶりの報告でした。水俣(1)で年齢分布としては20-24歳(1)でした。

▼今後の傾向に注視が必要です。

#### (週報分)

##### 1. 細菌性髄膜炎：

報告数は0件(前月比：-、前年同月比：-)で報告はありませんでした。

▼例年並みに散発的な報告数です。

##### 2. 無菌性髄膜炎：

報告数は2件(前月比：0.7、前年同月比：-)と減少傾向でした。熊本・人吉(各1)で、年齢分布としては25-29歳・50-54歳(各1)でした。

▼例年並みの報告数でした。

##### 3. マイコプラズマ肺炎：

報告数は0件(前月比：-、前年同月比：-)で報告はありませんでした。

▼今年4月以降、引き続き報告はありません。

##### 4. クラミジア肺炎：

報告数は0件(前月比：-、前年同月比：-)で報告はありませんでした。

▼引き続き報告はありません。

##### 5. 感染性胃腸炎(ロタウイルスによる)：

報告数は0件(前月比：-、前年同月比：-)で報告はありませんでした。

▼昨年11月以降、引き続き報告はありません。

## 届け出対象感染症

1類感染症	: 報告はありませんでした。	
2類感染症	: 結核	14件
3類感染症	: 腸管出血性大腸菌感染症	4件
4類感染症	: レジオネラ症	7件
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	1件
	日本紅斑熱	3件
	日本脳炎	1件
5類感染症	: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3件
	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	1件
	水痘 (入院例)	2件
	梅毒	25件